事八日（ことようか）

２月８日と 12 月８日を総称して事八日といいます。２回の事八日は、正月行事の始まりと終わりの日とも考えられています。コトは神事のことで、主に神々の送迎に関わるものです。栃木県では、疫病神が訪れる日といわれ、これを追い払う行事が各地で伝承されていました。

メカイをかかげる

（平成十三年鹿沼市笹原田　県立博物館提供）

～とちぎ人の想い～

70 年くらい前は、十分に好きな物を食べられない時代でしたが、事八日には赤飯や魚のごちそうが食べられたので、楽しみでした。

〈プラス１情報〉

○ コゴト（小言）の始まり、終わりの日ともされています。

○ 7 日の夜には、履物をきちんとそろえておかないと、「疫病神に印を押される」ともいわれています。

〈事八日の説明〉

事八日は、ダイナマコという一つ目の疫病神がやってくる日とされ、竹竿の先に目（マナコ）のたくさんあるメカイ（目籠）をつけて家の軒先に立てかけたり、ニンニクや豆腐を串にさして戸口に置いたり、また、草刈籠をさかさにして門口に置いたりしました。

さらに、「笹神様」といって笹を３本束ねたものを庭に立て、束ねたところにうどんやそば、小豆飯などを供えた地域もありました。この行事は、栃木県や茨城県にしか見られない行事で「北関東のササガミ習俗」として国の文化財に選択されています。

また、この日は針供養の日でもあり、針を使う仕事に携わる人や裁縫の技術を覚える人たちにとっては、針仕事を休む日でした。